

要旨(要約) (対照表) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考)

要旨(要約) (対照表) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考)

平成28年度徳島県公立高等学校入学学力検査 集計結果について

要旨(要約) (対照表) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考)

要旨(要約) (対照表) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考)

要旨(要約) (対照表) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考)

要旨(要約) (対照表) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考)

要旨(要約) (対照表) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考)

要旨(要約) (対照表) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考)

要旨(要約) (対照表) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考) 資料(参考)

徳島県教育委員会教育創生課

平成 2 8 年 度

徳島県公立高等学校入学学力検査（特色選抜）の成績結果の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（特色選抜）は、検査Ⅰ（国語、社会、英語）、検査Ⅱ（数学、理科、英語）の2部構成とし、5教科について実施した。

配点は、各教科40点満点で、学力検査の総点は、200点満点である。

問題作成に当たっては、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるようにした。学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度をみる問題が中心になるように配慮した。

5教科総合の平均点は、100点満点に換算して、58.3点であり、昨年度より2.5点低かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

平成28年度
徳島県公立高等学校入学学力検査(特色選抜)成績表

受検者総数 813名

年度 教科	本 年 度		平成27 年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点 と比較	平 成 2 7 年 度		過去5 か年の 平均点
	平均点 (40点満点)	標準偏差			平均点 (40点満点)	標準偏差	
国 語	29.9	6.7	+ 7.7	+ 4.8	22.2	7.8	25.1
数 学	19.8	10.1	- 7.6	- 4.2	27.4	10.2	24.0
社 会	22.3	9.5	- 1.9	- 1.8	24.2	9.2	24.1
理 科	20.2	9.3	- 3.4	- 3.0	23.6	9.4	23.2
英 語	24.2	11.1	+ 0.0	+ 1.2	24.2	9.7	23.0
5教科総合	23.3	7.7	- 1.0	- 0.6	24.3	7.8	23.9

年度 教科	平 均 点						
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
国 語	24.4	27.3	26.9	24.5	22.2	29.9	74.8%
数 学	28.6	20.5	21.4	22.1	27.4	19.8	49.5%
社 会	22.9	23.2	27.2	23.0	24.2	22.3	55.8%
理 科	24.9	23.7	23.0	20.7	23.6	20.2	50.5%
英 語	25.1	20.5	24.4	20.6	24.2	24.2	60.5%
5教科総合	25.2	23.0	24.6	22.2	24.3	23.3	58.3%

平成 2 8 年 度

徳島県公立高等学校入学学力検査（一般選抜）の成績結果の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（一般選抜）は、国語、数学、社会、理科、英語の5教科について実施した。

配点は、各教科100点満点で、学力検査の総点は、500点満点である。

問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された範囲内で、平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。

基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度や、思考力、判断力、表現力等をみることができる問題を出題した。また、選択肢形式の問題と記述形式の問題とのバランスを考慮し、文章記述の問題も出題した。

5教科総合の平均点は、100点満点に換算して、54.0点であり、昨年度より4.8点低く、過去5か年の平均点より1.9点低かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

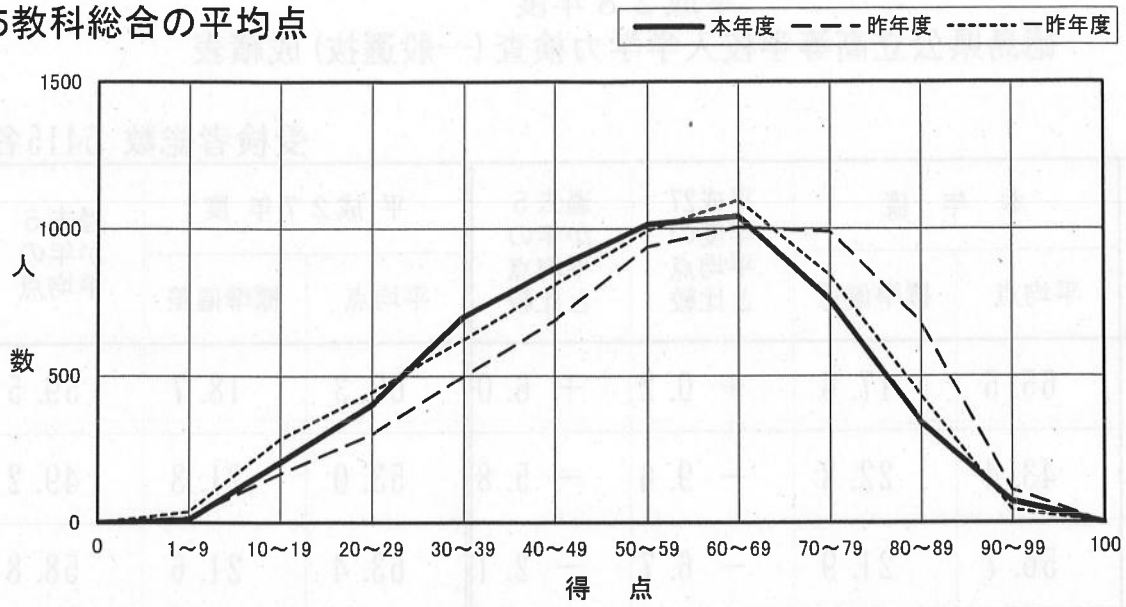
平成28年度
徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績表

受検者総数 5415名

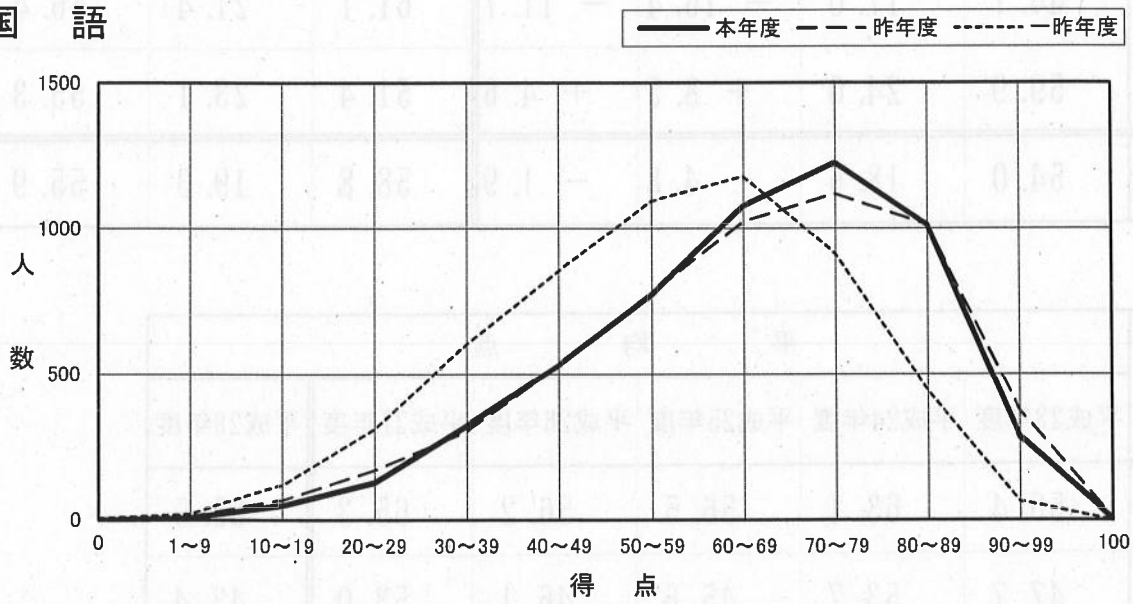
年度 教科	本 年 度		平成27 年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点 と比較	平 成 2 7 年 度		過去5 か年の 平均点
	平均点	標準偏差			平均点	標準偏差	
国 語	65.5	17.6	+ 0.2	+ 6.0	65.3	18.7	59.5
数 学	43.4	22.8	- 9.6	- 5.8	53.0	21.3	49.2
社 会	56.7	21.9	- 6.7	- 2.1	63.4	21.6	58.8
理 科	44.7	17.0	- 16.4	- 11.7	61.1	21.4	56.4
英 語	59.9	24.0	+ 8.5	+ 4.6	51.4	23.1	55.3
5教科総合	54.0	18.6	- 4.8	- 1.9	58.8	19.3	55.9

年度 教科	平 均 点					
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
国 語	56.4	63.1	56.5	56.2	65.3	65.5
数 学	47.7	53.7	45.6	46.1	53.0	43.4
社 会	59.6	54.8	56.9	59.4	63.4	56.7
理 科	55.5	59.9	51.5	54.2	61.1	44.7
英 語	56.2	57.9	56.9	54.2	51.4	59.9
5教科総合	55.1	57.9	53.5	54.0	58.8	54.0

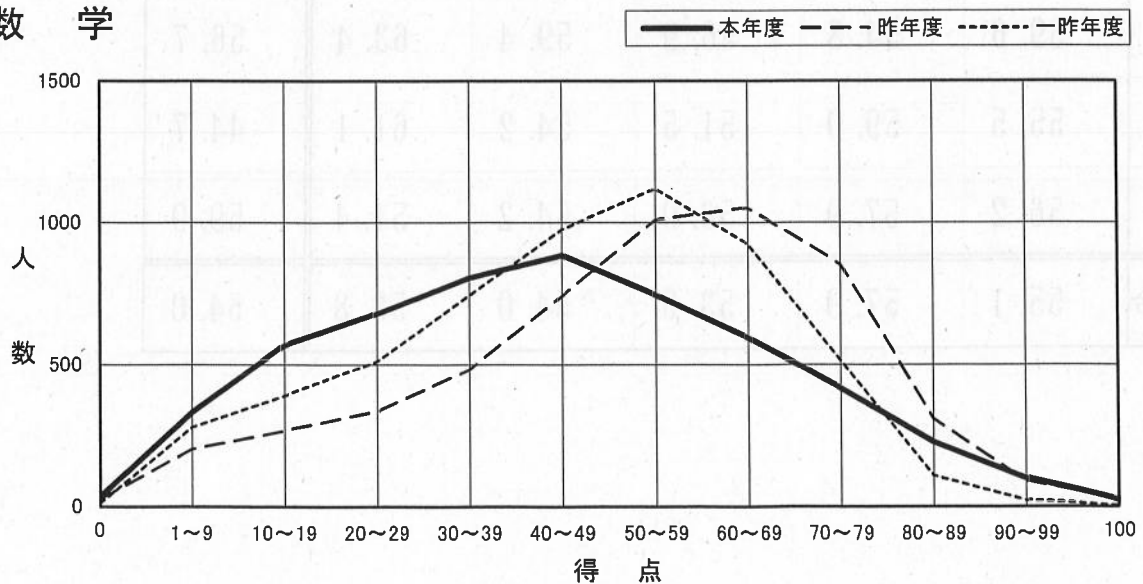
5教科総合の平均点



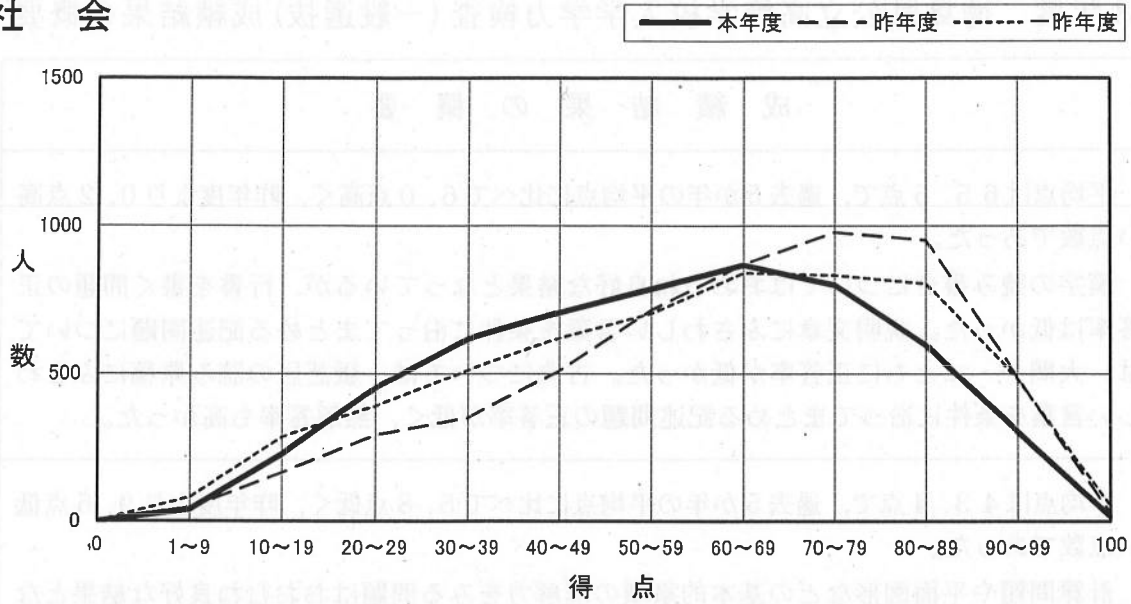
国語



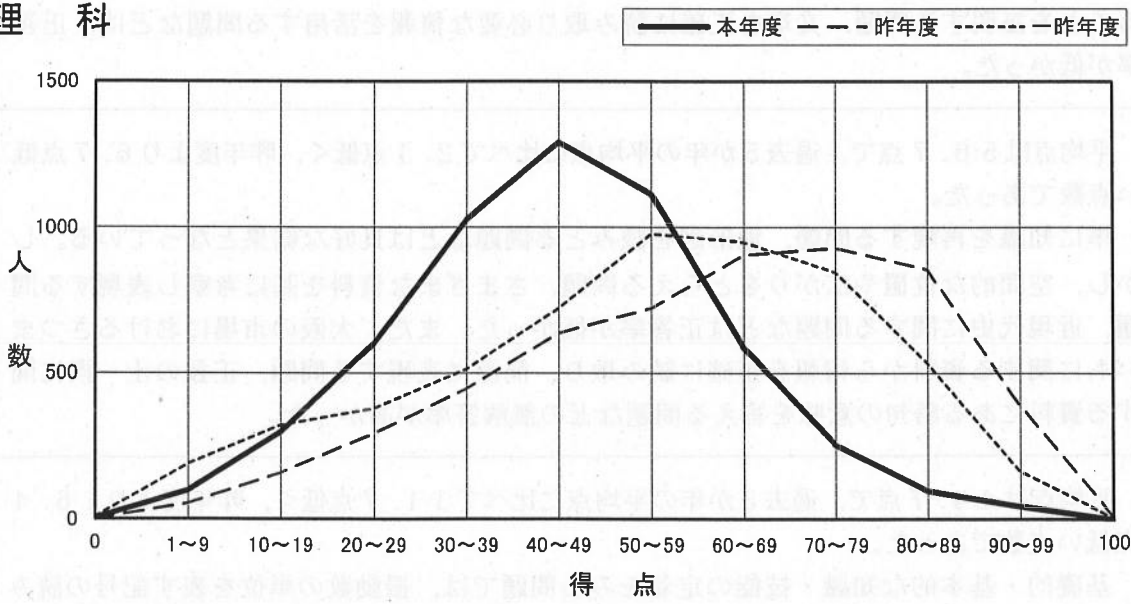
数学



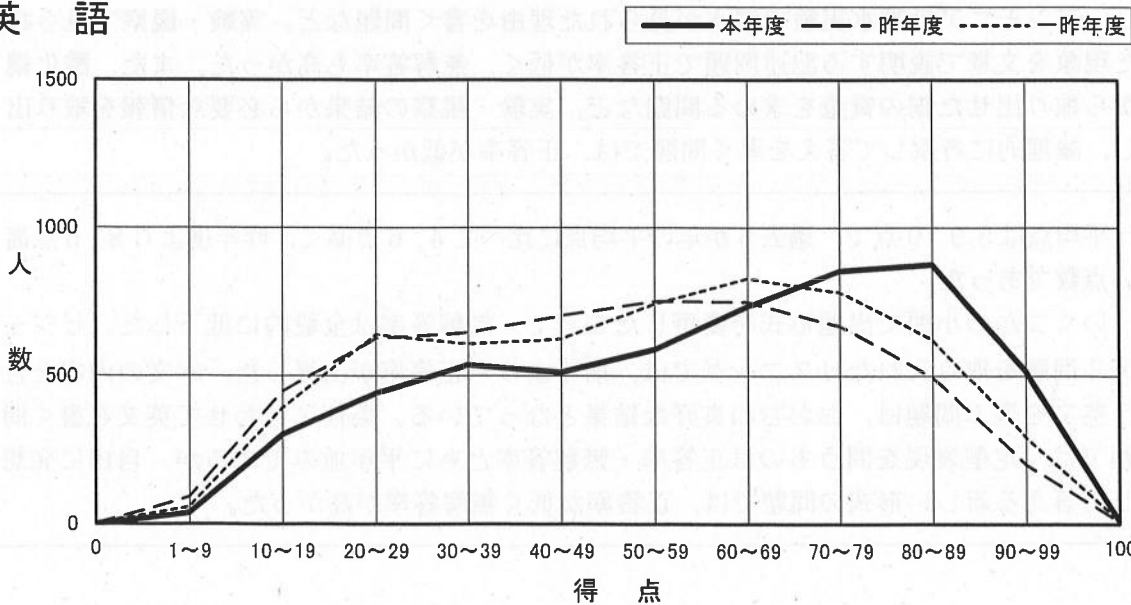
社会



理科



英語



平成28年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績結果の概要

教科	成績結果の概要
国語	<p>平均点は65.5点で、過去5か年の平均点に比べて6.0点高く、昨年度より0.2点高い点数であった。</p> <p>漢字の読み書きについてはおおむね良好な結果となっているが、行書を書く問題の正答率は低かった。説明文章にふさわしい言葉を条件に沿ってまとめる記述問題については、大問一・二ともに正答率が低かった。古典については、紙芝居の読み原稿にふさわしい言葉を条件に沿ってまとめる記述問題の正答率が低く、無解答率も高かった。</p>
数学	<p>平均点は43.4点で、過去5か年の平均点に比べて5.8点低く、昨年度より9.6点低い点数であった。</p> <p>計算問題や平面図形などの基本的事項の理解力をみる問題はおおむね良好な結果となっている。しかし、座標平面上での平行四辺形に関する問題や2つの三角形が相似であることを証明する問題、文章を正確に読み取り必要な情報を活用する問題などは、正答率が低かった。</p>
社会	<p>平均点は56.7点で、過去5か年の平均点に比べて2.1点低く、昨年度より6.7点低い点数であった。</p> <p>単に知識を再現する問題、地形図を読みとる問題などは良好な結果となっている。しかし、空間的な位置や広がりをとらえる問題、さまざまな資料を基に考察し表現する問題、近現代史に関する問題などは正答率が低かった。また、大阪の市場におけるさつまいもに関する資料から情報を正確に読み取り、簡潔に表現する問題、正長の土一揆に関する資料にある語句の意味を答える問題などの無解答率が高かった。</p>
理科	<p>平均点は44.7点で、過去5か年の平均点に比べて11.7点低く、昨年度より16.4点低い点数であった。</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題では、振動数の単位を表す記号の読み方を書く問題など、正答率が高いものが多く、おおむね良好な結果となっている。しかし、アンモニアの噴水実験で噴水が見られた理由を書く問題など、実験・観察で見られた現象を文章で説明する記述問題で正答率が低く、無解答率も高かった。また、酸化銅から取り出せた銅の質量を求める問題など、実験・観察の結果から必要な情報を取り出し、論理的に考察して答えを導く問題では、正答率が低かった。</p>
英語	<p>平均点は59.9点で、過去5か年の平均点に比べて4.6点高く、昨年度より8.5点高い点数であった。</p> <p>いくつかの小問で出題形式を変更したことで、無解答率は全般的に低下した。ビジュアル問題を取り入れたリスニングでは、前年よりも正答率が上昇した。本文の内容と合う英文を選ぶ問題は、おおむね良好な結果となっている。条件に合わせて英文を書く問題では、定型表現を問うものは正答率・無解答率ともに平年並みであるが、自由に発想して答える新しい形式の問題では、正答率が低く無解答率が高かった。</p>